

# 西南学院大学博物館研究室訪問シリーズ 第5回 尹芝惠研究室



윤지혜

西南学院大学 国際文化学部国際文化学科  
尹芝惠 (ユン・ジヘ) 准教授

- 1997年** 浮世絵美人画にひかれ来日。
- 1998-2006年** 広島大学大学院に通う。博士前期課程で美人画についての修士論文を執筆中、浮世絵に描かれた朝鮮通信使の存在に気付く。博士後期課程で朝鮮通信使研究を始める。
- 2007年** 西南学院大学に着任。現在に至る。
- 2015-2016年** 英国オックスフォード大学での在外研究の際、ヨークシャーのKiplin Hallにて未公開朝鮮通信使船団図を発見し、日本及び韓国で発表した。



左:英国Kiplin Hallにて(2019) 中央、右:「ユネスコ世界の記憶遺産登録2周年記念シンポジウム」にて(2019, 2021)

## 研究室訪問シリーズについて

研究室訪問シリーズとは、西南学院大学の先生方が研究の合間にコツコツと集めてこられた貴重な個人コレクションや、長年の研究成果を博物館スタッフと協力して一挙公開するものです。普段は大学の教室や研究論文でしか知ることのできない先生方の研究をわかりやすく紹介します。大学における社会の窓口として、大学と地域社会の皆様とをつなぐ場となる大学博物館の使命を果たす企画です。

### 要申込・参加無料

企画展関連 せいなんワークショップ

#### 「くずし字でキーホルダーをつくろう！」

むかしの日本で使われていた「くずし字」で名前を書き、ブラバンでキーホルダーを作ります。

日時:2024年5月11日(土)14時~(1時間程度)  
会場:西南コミュニティセンター2階会議室  
対象:どなたでも(小学3年生以下は保護者1名同伴)  
定員:20名(先着順)

申込方法:既定のフォームに必要事項を記入していただくか、博物館窓口にて直接お申込みください(受付期間:4月8日[月]~定員となるまで)。定員に達し次第締め切らせていただきます。



申込フォームはこちら

### 申込不要・参加無料

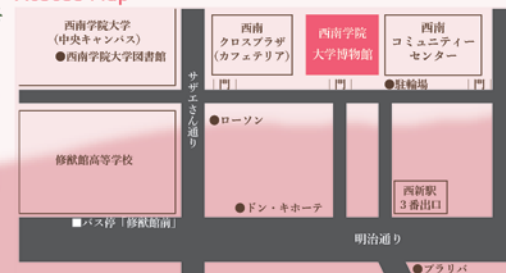
企画展関連 公開講演会

#### 「絵画記録にみる朝鮮通信使の江戸登城」

講師:町田一仁氏(対馬博物館館長)

日時:2024年5月18日(土)  
13時~14時30分(開場12時30分)  
会場:西南コミュニティセンター1階ホール  
定員:150名  
※申し込みは必要ございません。12時30分になりましたら、会場に直接お越しください。

### Access Map



西南学院大学博物館  
SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号  
TEL 092-823-4785 FAX 092-823-4786

福岡市地下鉄「西新」駅3番出口から徒歩3分  
西鉄バス「修猷館前」バス停から徒歩5分  
※駐車場はございません。車でお越しの際は、近隣のパーキングをご利用ください。



※Twitter(@seinan\_museum)、Instagram(@seinan\_museum)、Youtube公式チャンネルを更新中です。  
※最新情報は公式HP(<http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>)をご確認ください。

2024年度西南学院大学博物館企画展 I 研究室訪問シリーズV

# 描かれた 朝鮮通信使

그려진 조선통신사



◀朝鮮通信使図>(部分) 林原美術館蔵 画像提供:林原美術館/DNPartcom  
本資料を許可なく複製することを禁止します。



2024.4.8月 - 6.26水

〈会場〉西南学院大学博物館 1階特別展示室・廊下

〈開館〉10:00~18:00 (入館は17:30まで) 日曜休館

主催 | 西南学院大学博物館  
協力 | 尹芝惠研究室(西南学院大学国際文化学部) ギャラリー青山

西南学院大学

入場  
無料



# 第1章 「信を通ずる」使節

朝鮮通信使は、室町時代から江戸時代にかけて朝鮮国王から日本へ派遣された使節である。今日では遠隔地間で情報を伝達する手段に対して用いられる「通信」という言葉だが、当時は単なる音信のやり取りという意味以上に「信を通ずる」、つまり日本と朝鮮が親しい関係を構築するための使節という意味が込められていた。通信使による訪日の記録は『通信使膳録』などの公式記録だけでなく、個人の日記という形式でも多数作成された。

雨森芳洲肖像画 (パネル展示)  
(芳洲会所有・高月観音の里歴史民俗資料館保管)



あめのもりほうしゅう  
雨森芳洲 (1668~1755) は釜山の倭館に3年滞り、朝鮮語を修得しました。第8・9回朝鮮通信使来日の際には、朝鮮の応接と外交文書を扱う「真文役」として対馬-江戸間の往復に同行しました。61歳の頃に著した『交隣提醒』では、互いに欺かず争わず真実をもって交わる「誠信外交」の必要性を述べています。

雨森芳洲と朝鮮通信使かるた



2017年ユネスコ「世界の記憶」登録記念図録

2017年10月31日  
ユネスコ「世界の記憶」に  
朝鮮通信使に関する記録  
日本側：48件209点  
朝鮮側：63件124点  
計111件333点が登録されました

第11回朝鮮通信使で書記を務めた  
金仁謙(김인겸)がハングルで記した使行録



『日東壯遊歌』  
(韓國學文献研究所編)

# 第2章 「通信使像」の変遷



羽川藤永<<朝鮮通信使来朝図>> (パネル展示)  
(神戸市立博物館蔵)



朝鮮通信使文皿  
(香蘭社製作)

## 通信使人形

通信使をモチーフにした人形が  
日本各地に残されています



三春張子人形  
(福島県郡山市)



出雲人形  
(奈良県櫻井市)

「吉原俄」の中で  
芸者が「通信使」に扮した姿が描かれました

通信使の服装には見られない「ボタン」や「襷袢」が付いた衣装



喜多川歌麿<<見立唐人行列>> (パネル展示)  
(アーサー・M・サックラー美術館蔵)

数百人からなる通信使たちの賑やかな行列は、日本人に強烈なインパクトを与えた。通信使の姿は浮世絵を中心とする多くの絵画作品に残されているが、その姿は必ずしも実際の姿に即して描かれたわけではなかった。本章では、当時の日本人が持っていた「異国人のイメージ」がどのようなものだったのか、通信使を題材としたさまざまな絵画資料をもとに紹介する。